

みらいん

わかばやし

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。

第 15 号



◀「新鮮な野菜を食べて元気になってもらいたい。お客さんに「おいしかったよ」と声をかけてもらうと私たちが元気になって、農家の方にも「評判良かったよ」と元気を戻すんです」そう笑顔で話す森さん。人々の間で元気がぐるぐる回っています

今月の
ひと

若林で採れた野菜を通じて交流の場づくり

産直野菜マルシェとおしゃべりサロンの担当者

地域住民と仮設住宅入居者との交流を目指して

震災前から井土地区にある冒険広場で開催していた「産直広場ぐるぐる」。震災後は市内5カ所で、買物が不便な地域や仮設住宅にお住まいの方を対象に野菜の移動販売をしています。

また、若林3丁目では、路面での野菜の販売「若林マルシェ」と、“今日のスープとお惣菜”を食べながら交流を楽しむ屋内での「おしゃべりサロン」を開いています。

「サロンで提供しているスープは、仙台の伝統野菜や珍しい西洋野菜など、地元の六郷・七郷地区で採れた野菜をじっくり煮込んでつくります」そう語るのは、「産直広場ぐるぐる」の企画運営をしているNPO法人冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワークの森暁美さんです。

お客さんは地域の高齢者が多く、「近くにスーパーも無かったからとても助かっています」

「野菜が新鮮でおいしいです」「皆さんとおしゃべりするのが楽しい」などと、評判も上々です。

更に森さんは、「サロンでお話していたら、若林区内はもちろん、石巻や相馬からいらした借り上げ民間賃貸住宅の方とも出会ったんです。顔なじみになってくると、お客さんのほうから話しかけてくれ、スタッフや地域の方とも交流が生まれてきました。いつも笑い声が外まで響いてるって言われます。

そんな時は、少しでも心のケアになってるかなと思うんですよ」と、笑顔を見せます。

野菜スープで心まで温かくなる、若林にはそんなマルシェ(市場)があります。



2013

2月

綿の花、咲いたよ

綿花生産者と小学生の交流

JR南小泉アパート仮設住宅(以下、南小泉仮設住宅)にお住まいの綿花生産者の方々と、仙台市立南小泉小学校の児童たちの交流が深まっています。小さなきつかけが芽となつて、そのつながりほどんど大きく育ち、花を咲かせたのです。この冬、児童たちが学校のプランターに植えた綿花が見事に実を結び、生産者の方々と手渡されました。被災した生産者と、小学生たちの交流の足取りを追ってみましょう。



東北コットンプロジェクトとは

津波で被災した若林区荒浜地区と名取市の農業生産組合・農業法人とアパレル関連企業が、2011年から共同で展開するプロジェクト。被災した水田に、耐塩性の高い「コットン」を栽培し、紡績から商品化、販売までを行っています。生産者には綿花栽培のプロフェッショナルによる技術指導や、収穫後の綿花の全量買取など、さまざまなバックアップを行い、転作による農地の再生、安定した農産物の確立を目指しています。

始まりは子どもたちの贈り物

綿花生産者の松木弘治さん、貴田勝彦さんが入居するのは、南小泉仮設住宅です。ここにお住まいの方へ、南小泉小学校四年生の児童が、昨年三月、三年生の時に手づくりのエコたわしをプレゼントしたことが、交流の始まりでした。

南小泉仮設住宅にお住まいの皆さんが、お礼にと折り紙でつくった復興風船を届けに小学校へ出向いたのが昨年六月五日。思いがけないお礼の品に喜ぶ児童たちに、松木さんが持ちかけたのが、綿花栽培のお手伝いでした。

皆の力をコットンプロジェクトに

綿の種を手にし、児童たちと向き合った松木さんは、塩害の田んぼで始まった「東北コットンプロジェクト」のことを話し、こう続けました。「ちょっとだけ力を貸してください」

児童たちに綿花栽培のお手伝いをお願いしたのです。松木さんから種植えや栽培の方法を教えてもらい、綿の種を受け取った児童たちは、指導を受けながら、それぞれのプランターに丁寧に種を植え、「大切に育てること」、「コットンボールが開いたら収穫すること」を約束しました。



「ちゃんと芽が出ますように」丁寧に種を植えていきます



南小泉仮設住宅にお住まいの方に震災時の経験を語ってもらい、命の大切さを学びました

つながりはこれから

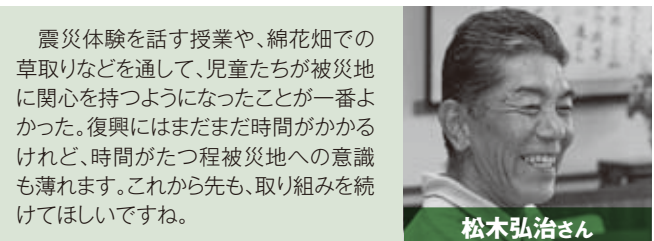
こうして始まった綿花栽培のお手伝いは「スマイルコットンプロジェクト」と名付けられ、四年生の児童のみならず、他の学年の児童や保護者・PTA関係者にも広まりました。大切に綿花を育てている間も、南小泉仮設住宅の方から震災体験を聞き、命について学んだり、秋には雑草取りのお手伝いに荒浜の綿花畑に出向き、生産者の仕事の大変さも学びました。

この交流は児童たちにとって、身近で起きた震災を知り、何かを感じ、そして自分にできることを見つけるきっかけとなりました。そして、学校で大切に育てられた綿花は、年をまたぎ今年二月一日、コットンボールとなって生産者の手に渡されました。

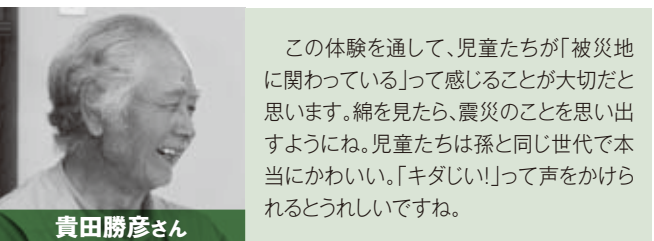
プロジェクトをけん引した白井教頭先生は、「この学習を通して、児童は多くのことを感じ、『今、自分にできること』を実感できる学習になりました。保護者からの反響も大きく、次年度以降も続けてほしいとの声が寄せられました。授業を通して、積極的に被災された方とのつながりをつくっていくことは、大きな未来につながる学びです」と、話してくれました。児童たちとのつながりは、これからも続いていきます。

児童と保護者の声

- 人は一生懸命助け合うことや人のために考えることができます。それを学びました。ほくも人のためになりたいです。(4年生男児)
- 絆のことについて感じました。皆で助け合っていることで、もっと絆がいろいろな人と深まっていることを感じました。(4年生女児)
- 荒浜の方々を招いてお話を聞いたり、コットンプロジェクトなどで他の人の気持ちを思いやることを多く学ぶことができ、とてもよかったと思います。(保護者)
- 被災地のこと、復興に対する思い等、息子と話すようになりました。コットンプロジェクト、ぜひ来年も挑戦したいと願います。(保護者)



松木弘治さん



貴田勝彦さん

この体験を通して、児童たちが「被災地に関わっている」って感じるのが大切だと思います。綿を見たら、震災のことを思い出そうにね。児童たちは孫と同じ世代で本当にかわいい。「キタじい!!」って声をかけられるとうれしいですね。

6日(木) 県産の花で豪華アレンジメント
(JR南小泉仮設住宅)



古城のお花屋さん「村上生花店」さんが指導する生花教室が開かれました。名取のカーネーションや、石巻のバラなど、県産の花でつくられたのは、クリスマスにもお正月にも活躍するアレンジメントでした。

7日(金) 皆で手づくり楽しいなあ〜
(卸町東2丁目公園仮設住宅)



穏やかな冬の午後、集会所に集まったのは元気な女性陣です。既に自宅のリフォームが済み、仮設住宅から退去した方も参加していました。本日のテーマは「牛乳パックと古着で便利箱をつくろう」。皆さん思い思いの布で、手作業を進めました。

15日(土) 「カリフォルニアから来ました！」
(井土)



4年ぶりのホームステイを受け入れたのは、加藤新一さん夫妻です。アメリカカリフォルニア州ロサンゼルス市から来た男子大学生は、ジェローム・リムさん。彼は大学で日本語を勉強しているので、簡単な会話は日本語でOK。加藤さんお手製の寿司で歓迎されると「トッテモ、オイシイデス」。

19日(水) 子どもたちの元気ノリノリダンス
(六丁の目中西公園仮設住宅)



近所のマザーグース保育園の園児たちがダンスのプレゼントを届けてくれました。ヒーローやテレビアニメの主題歌に乗せて一生懸命踊る子どもたちに、住民の皆さんはたくさんの元気をもらっていました。

19日(水) 皆一緒のスペシャルナイト!
(七郷市民センター)



「メリーあらはマス」と題され、夜に開催されたクリスマスパーティー。学習支援を行うのびのび学習会が主催しました。ケーキづくりから始まり、大学生のスペシャルオーケストラの演奏などで、いつもとは違う特別な夜を満喫する子どもたちでした。

20日(木) イケてる2人の生ライブ!
(荒井7号公園仮設住宅)



車で全国を駆け回るミュージシャン「ソーセージ」さんがミニライブを開催。サンタの衣装で登場し、即興曲や芸人さん顔負けの楽しいおしゃべりを披露。アロママッサージなども同時に行われ、笑いと癒しの楽しい時間となりました。

23日(日・祝) 見どころいっぱいクリスマス会
(七郷市民センター)



荒浜の住民グループ「若松会」の昨年に続き2回目となるクリスマス会。今回はスペシャルゲストとしてダンスボーカルユニットZOOの元ボーカルSATSUKIさんが登場してライブを開催しました。さらに、ティディベア作家の先生が180cmのティディベアを引き連れ、子どもたちと手づくり教室を開いたり、お父さんたちによる妖艶な(?)女装コンテストが開かれるなど、見どころいっぱい笑顔の絶えないスペシャルなクリスマスを満喫しました。



27日(木) 関西から餅つき隊がやってきた
(七郷中央公園仮設住宅)



仮設住宅の駐車場まで響く「ヨイショー!」の掛け声。発声元まで行ってみると、餅つき大会の真っ最中でした。関西からやってきたボランティアさんたちによる支援です。つきたての餅は関西では定番の大根おろしダレや、珍しいゴマみそのタレなどでふるまわれ、舌鼓を打つ皆さんでした。

27日(木) 旅の一座がやって来た〜
(荒井小学校用地仮設住宅)



沢山の観客で大入り満員の集会所。出し物は観月流あさか舞踊の皆さんによる剣舞などで、男子小学生が踊ると「オヒネリ」も飛びました。集まった皆さんは、久しぶりに大声で笑ったり、秋田名物のキリタン鍋でお腹もいっぱいになりました。

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建...。沿岸部にお住まいの方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体に話し合われている内容についてお知らせします。

荒浜再生を願う会

荒浜に戻って生活再建を目指す住民有志が中心となって活動しています。



▶1月11日深沼海岸にて、海から昇る太陽に荒浜の再生を祈願するメンバー

1月7日(月)定例会議

内容 ●仙台市に出した要望への回答について

当日の様子 12月18日付で仙台市より回答書が届いたので内容を報告しました。●荒浜地区に盛土をして避難施設や住居用地とする→「非現実的であり、避難施設としては荒浜小学校校舎を使用する」●災害情報伝達体制の構築→「屋外拡声装置や防災メールを整備している」との回答がありました。会では、これからも検討を重ね市へ提案を続ける事を確認しました。

問い合わせ先:代表 貴田喜一 090-8254-4270
定例会議:毎週月曜日19:00~ 荒井小学校用地仮設集会所

荒浜移転まちづくり協議会

集団移転の早期実施と移転後の荒浜の地域コミュニティ再生を目的としています。



▶12月27日サンビアにて餅つきをしました。風は強いながらも晴天に恵まれた中、杵を振るう末永代表やメンバー

12月21日(金)定例会議

内容 ●仙台市に出した要望への回答について

当日の様子 回答書は、●借地料免除期間を最短35年にすること→「施策の公平性を保つためには、個々人に対して差が生じる事は止むを得ない」●復興公営住宅の家賃を10年間免除すること→「人口の流出入を考慮して、他市町村とバランスをとる必要がある」●被災者生活再建支援金制度に津波被災者を追加設定すること→「引き続き国へ要望をしていく」との内容でした。会では、今後も要望を続ける事を確認しました。

代表 末永薫(問い合わせがある場合は直接定例会議においてください)
定例会議:毎週金曜日19:00~ サンビア2F 会議室4

読者からひとこと

●家を流されたけど、自然災害には逆らえないし、運命だと思って前向きにいくしかないですね。この先の住まいなどは行政に従っていくけど、高齢の方も多し、スピード感を持って進めてもらえるようお願いしたいです。
若林区/金成さん

●高砂神社に来ると誰かに会えるから、普段からちょくちょく通って掃除しています。うちの親父も総代をやっていたし、地元の氏子としてここを守らないとね。皆で守っていく意識を持てるといいね。
宮城野区/小野正寿さん

●毎月必ず集会所へやって来る「おしるこカフェ」は、甘い物が大好きな自分にとっては何よりの楽しみ。お手製のあんこと柔らかいお餅でつくられたおしるこは、一度食べたら忘れられない味です。食べている今から来月が待ち遠しいです。
太白区/Oさん

明日の二本塚を考える会

東六郷地区における農地と宅地の一体的な整備や住民主体のまちづくりを目指しています。



▶12月21日に開催された津波避難施設の説明会。テレビの取材もあった為か、市職員も参加者も少し緊張していましたが、積極的な意見交換がなされました

1月9日(水)定例会議

内容 ●津波避難施設に関する説明会の報告
●地区の状態調査と学習会の準備

当日の様子 12月21日六郷市民センターで開催された津波避難施設の説明会では、市職員の説明が終わると、参加者から●避難施設の増設●徒歩避難と自動車避難の予想割合を再検討すべき●今現在の防災対策を最優先に、などの要望が出されました。次回の地区の状態調査は1月19日と20日に、次回の学習会は2月3日の町内会総会に合わせて開催する事が確認されました。

問い合わせ先:代表 小野吉信 090-3122-4843
会議、学習会は自由参加、随時開催

被災地レポート

震災の混乱期、
住民に商品や井戸水を提供

「元々地盤が弱くてね、この辺りは。集落の三分の一ほどの家屋が建て直し、全壊被害を受けた家も少なくないのよ」。下飯田地区で唯一の商店「フードショップ茶屋」を営む芳賀とよ子さんは、そう話します。夫の実さんと夫婦二人三脚で営む店は、一九〇六年ごろ創業の老舗で、芳賀さん夫妻が四代目となります。食料品を中心に日用雑貨を扱っており、津波襲来時には店内が浸水したものの、深刻な被害は避けられました。



フードショップ茶屋

た。そのため、店は翌日から営業を始め、地域住民らを中心に長い列ができました。商品を買求めるばかりではなく、多くの人が水を求めて店にやって来ました。

その水は、店外に備えられた井戸水です。周辺地域が大きな被害を受けた宮城県沖地震を教訓に、芳賀さん夫妻は四年前、自宅と店舗を建て替えた際、停電時でも使えるようにと手動ポンプの井戸を整備していました。ライフラインが途絶えた非常時に、その井戸が大活躍し、しばらくはボランティア活動の水としても重宝されました。

「店の中の商品は棚から落ちて、結構な被害だったんだけど、(隣の)自宅は皿一枚落ちなかったの、実は。周りの人たちの被害に比べたら、うちは全然平気だったから、あの時すぐに店を開くことができたのよ」と、とよ子さんは当時を振り返ります。四年前に当時築四十年ぐらいの自宅を建て替えたのは、宮城県沖地震で被害を受けて建物が老朽化していた



震災時に大活躍した井戸

ことと、将来の大地震に備えるためだったといえます。「家と店を建て替えたからこそ、震災で仕事を失うこともなかったのよ。そして、いくらかでも地域の人の役に立てた」とも話すとよ子さん。

地域のかすがいとして 個人商店を営む

仙台市中心部から車で二十分ほどの距離にある下飯田地区。近代化の流れの中にあつて、老舗とはいえ個人商店を営み続けるのは容易ではありません。実際、店を建て替える時、周囲からの反対が少なからずあったといえます。「正直、こういう商店はあってもなくてもいいの

フードショップ茶屋 (下飯田地区)

よ。でもね、小さな店だからこそできることってあると思うのよ。まあ、地域の留守番役で、人が寄り合っておしゃべりする場なのね。この店は」とよ子さんの言葉は多少自嘲気味ですが、ひっきりなしにやってくる幅広い年代層のお客さんたちとの触れ合いから、必要とされ続けている店なのだということを感じます。

とよ子さん夫婦のもとには、地域で起こっている様々な事柄や個別の相談事なども持ち込まれるそうです。「被災地ではこれから、孤立しないような復興が大切だと思うわ」と話すとよ子さん。長年、地域の人々とのつながりを大事にしてきたからこそ言える言葉なのでしょう。



お客さんと楽しげにやりとりする芳賀とよ子さん(右)

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

おしゃべりサロンdeひなまつり

若林産野菜の移動販売と交流サロンを開いている「産直市場ぐるぐる」による、ひなまつりのイベントです。2月23日にはスペシャルなコンサートも行います。

対象 どなたでも参加できます
時 2月20日(水)、23日(土)、27日(水) 各日10:00~14:00
場所 産直市場ぐるぐる(若林区若林3-1-18 若林ハイツ103)
内容 お雛様の展示「ちいさなお雛様展」とワークショップ「折り紙でお雛様をつくりましょう」(材料費200円、申込不要)
※23日11:00からは、佐々木成己氏のオーボエコンサート「懐かしの映画音楽で優雅なひとときを」(入場無料)も行われます
問 080-1692-4633 産直市場ぐるぐる

荒浜小学校体育館等のお別れ会を開催します

2012年度中に、荒浜小学校の体育館とプールを解体する予定です。解体前に、これまで長きにわたって子どもたちの成長を支え見守ってきた体育館とプールのお別れ会を開催します。

対象 どなたでも参加できます
時 2月17日(日)11:00~11:30
場所 荒浜小学校校庭(若林区荒浜字新堀端32-1)
直接会場へお越しください。車での来場も可能です
問 022-214-8860 仙台市教育局学事課

七郷で交流サロンを開いています

被災された方の交流を目的に、昨年8月から定期的に開催されている「ぼっかばかサロン」。毎月第2金曜日に、七郷市民センターで開かれています。地域の方が集まる、アットホームなお茶飲みサロンに参加してみませんか。

対象 どなたでも参加できます。直接会場へお越しください。
時 2月8日(金)、3月8日(金)10:00~
場所 七郷市民センター
内容 2月…七郷カルタ大会、3月…寸劇「水戸黄門」
問 022-288-6750 西村

支えあいセンターからのお知らせ

借り上げ民間賃貸住宅(以下、みなし仮設)にお住まいの方を支援する支えあいセンター主催の、おすすめサロン・イベント情報です。すべて参加無料。

サロン・イベント名	対象	時	時間	会場	内容	申込	問い合わせ
体を動かそう(すずめ踊り)	泉区のみなし仮設にお住まいの方	2月9日(土)	10:00~12:00	泉区中央市民センター	11月の泉中央サロンで大好評だったすずめ踊りの第2弾です	不要	支えあいセンターいずみ 022-772-5755
お茶っこ交流会	仙台市中央市民センター周辺のみなし仮設にお住まいの方	2月16日(土)	10:00~12:00	仙台市中央市民センター(仙台駅東口)	おいしいコーヒーの入れ方(講師/仙台スイーツ&カフェ専門学校)	要(電話)	支えあいセンターみやぎの 022-292-0990
ほのぼの富沢サロン	富沢周辺のみなし仮設にお住まいの方	2月21日(木)	10:00~12:00	富沢市民センター	介護予防のお話と体操	要(電話)	支えあいセンターたいはく 022-217-7234
和み・かたらいん茶話会	県北沿岸部・岩手県から避難された方	2月21日(木)	10:00~12:00	若林区中央市民センター別棟	かるた(予定)および茶話会	要(返信はがき)	支えあいセンターわかばやし 022-781-0559
ファッションショー	仙台市内にお住まいの方ならどなたでも	2月21日(木)	10:00~12:00	仙台市福祉プラザ	「着物リメイク手縫教室はないとき」さんによる手づくり作品のファッションショー	要(電話またはFAX)	支えあいセンターあおば 022-217-7234 FAX 022-721-1266

※その他の交流サロンについては、支えあいセンターからのダイレクトメールでご確認ください

健康相談などのお知らせ

電話：022-282-1111(若林区家庭健康課・障害高齢課)

相談名	時	時間	会場	内容	担当	問い合わせ
母と子の健康相談	2月22日(金)★	13:30~14:30	若林区役所3階	育児の心配や母と子の健康についての相談(保健センターでの歯科相談は隔月で行います)	保健師・栄養士★の日は歯科衛生士もおります	家庭健康課内線6772
	2月12日(火)★	9:30~10:30	七郷保健センター			
	3月5日(火)★	9:30~10:30	六郷保健センター			
子どものこころの相談室	2月14日(木)	午後・予約制	若林区役所3階	震災後の子どものこころの健康に関する相談(要予約)	児童精神科医	
健康づくり講話	2月13日(水)	両日共に講話：13:30~14:30 相談：14:30~15:30	若林区役所3階	(2月13日)脳血管疾患にならないために(3月8日)からだところかほぐれるストレッチング	(2月13日)仙台やまと町脳外科クリニック 宇都宮医師(3月8日)運動指導員	家庭健康課内線6785
健康づくり相談	2月13日(水)			健康相談	保健師、栄養士、歯科衛生士	
こころの健康相談	2月13日(水) 2月21日(木) 2月22日(金)★ 3月7日(木)	13:30~16:00 ★の日は9:30~12:00	若林区役所3階	こころの健康に関する相談(要予約)	精神科医師、精神保健福祉相談員、保健師など	障害高齢課内線6752
震災こころの相談	随時(土日祝日除く)	8:30~17:00	若林区役所1階窓口など	震災によるストレスやこころの相談		
高齢者総合相談	随時(土日祝日除く)	8:30~17:00	若林区役所1階窓口	高齢者の健康や介護・福祉の相談	保健師など	
認知症高齢者の家族交流会	2月8日(金)	13:30~15:00	若林区役所3階健康教室	認知症の方を介護している家族の交流会	保健師など	障害高齢課内線6307

からだ編 唾液とストレスとお口の乾燥のはなし

多くの人前で話をするときなどお口が乾いて大変だったという経験がありませんか？ これは緊張で交感神経が刺激され、唾液の分泌が少なくなったからです。ストレスが多くなっても同じようなことが起こります。唾液は普段気にすることはありませんが、口の中でとても大事な役割を果たしています。でんぷんを分解することはもちろん、口の中を滑らかにして乾燥を防いだり、食物を飲み込みやすくしたり、味覚の働きを敏感にします。また口の中に入ってくる細菌の働きを抑え、発がん性物質を減弱する働きまであります。口腔粘膜の傷の修復やむし歯予防にも深く関係しています。

このように唾液は血液と同じくらい大切なのです。普段のストレスで知らないうちにお口が乾燥していることがあります。よく噛むことは血流が促進して唾液腺が刺激されます。お顔のマッサージも唾液促進に効果があるでしょう。しかしシエーグレン症候群という唾液の少なくなる病気もありますのであまり気になるときは病院で診てもらってください。お口と歯から始まる健康生活はじめてみませんか。

旭ヶ丘ジュン歯科 歯学博士 柏崎 潤

柏崎 潤 (かしわざき じゅん)

日本睡眠学会認定歯科医、クリニック内で『ジュン先生の歯楽教室』を開催するなど、歯と健康に関するトータルアドバイザーでもある。ホームページ <http://www.junshika.jp/>

クロスワードパズル

出題 石田竹久

こたえ

A	B	C	D
---	---	---	---

1	2	3	4	5	
			A		
6		7		8	
		9			10
			D		
11	12			13	14
			15		
					B
16		17			18
		C			19
		20			

タテのカギ

- ① 鳴子温泉駅、中山平温泉駅などを通る陸羽東線の愛称は、「奥の細道○○○○ライン」
- ② 日常生活を意味する、「起臥」の読みは？
- ④ ○○○○○三名湯といえば、秋保温泉、鳴子温泉と福島県の飯坂温泉
- ⑤ 遠刈田温泉にある共同浴場は、「○○の湯」と「寿の湯」
- ⑦ 749年に、日本で初めて金が産出された、○○○町
- ⑩ 「街を歩けば○○も鳴子」は、鳴子温泉で使われた謳い文句
- ⑫ 宮城県と山形県にまたがり、温泉やスキー場、御釜、山寺など、名所が豊富な○○○国定公園
- ⑭ 材木の表面を滑らかにする大工道具
- ⑮ 暖房器具、「行火」の読みは？
- ⑯ かつて政宗公は、仙台藩の○○を積み出して、人口の増えた江戸の人々のお腹と、藩の財政を満たしました
- ⑰ 記号℃で表わされる、○○温度
- ⑱ 780年、現在の宮城県などで起こった、宝亀(ほうき)の○○

ヨコのカギ

- ① たくさんミニかまくらにろうそくが灯される、青根温泉○○あかりが、2月10日に開催されます
- ③ 俗に、嘘ばかりついている人は、○○○○少年
- ⑥ ふさふさ、コート、ミンク
- ⑧ 沿岸の気仙沼温泉や南三陸温泉では、○○を望む見晴らしも魅力
- ⑨ ことわざ。○○○危うきに近寄らず
- ⑪ 売買による差額の利益
- ⑬ 温泉地で湯上がり、「浴衣」の読みは？
- ⑮ 何かを2人以上でする時に合わせる、○○○の呼吸
- ⑯ 2月16日に仙台市歴史民俗資料館で、麦こがしづくりの実演が開かれます。麦こがしの別名といえば？
- ⑰ 作並温泉は、広瀬川の源流付近に○○時代から伝わりと言われる名湯です
- ⑱ 船形山や鈴沼がある、「河童のふるさと」をキャッチフレーズとする、○○○町

前回のこたえ

A ジ B ユ C ヒ D ヨ E ウ

でした。

1	ゴ	2	ム	3	ケ	4	イ	ナ			
5	シ	6	ヤ	7	ジ	8	ナ	9	ガ	10	イ
11	キ	12	キ	13	ヨ	14	リ	15	タ		
16	10	11	ズ	12	ミ	13	ロ	14	ー		
15	12	13	モ	14	カ	15	ホ	16	ウ		
17	18	19	ロ	20	ユ	キ	15	カ	16	キ	
17	18	19	パ	レ	ー	18	マ	19	イ	リ	

編集後記

新年を迎えて寒さが厳しくなり、若林区にも雪が積もりました。深沼海岸の赤い鳥居に飾られたしめ縄も薄っすらと白化粧。きつとハッテラ様も凍えているので、小刻みにゆれていました。(きうち)

時代に取り残されまいと、二つ折りの携帯電話からスマートフォンに替えました。使い勝手ががらりと変わって、悪戦苦闘の日々。電話は折らずにすんだのに、操作に骨折る毎日です。(佐藤)

●●● お住まいを移転される方へ ●●●

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛 先：〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL：022-390-5755
FAX：022-390-5756 e-mail：kawara@mwww.or.jp